

これが『創価学会教学要綱』！？

はじめに ～ひとりの学会員として感じる率直な疑問～

私は創価学会に入信して60余年、現在は壮年部として活動しています。これまで、日蓮大聖人の御書や三代会長のご指導のもとに同志と共に信仰を深め合い、数々の信仰体験を積んできました。そして今もなお、信心即生活の実証を体感する日々です。ところが、2023年11月に発行された『創価学会教学要綱』を読んで大きな違和感を覚えました。遠回しな言い回しは詐欺的表現に感じられ、しかも、これまで学んできた学会教学の根幹や精神とあまりに食い違っていたのです。以下に、私が感じた疑問点とその背景を整理し、この問題に真摯に取り組んでみました。

前置き 『創価学会教学要綱』をめぐる動き

- ・ **2023年11月**：『創価学会教学要綱』発刊（以下「**要綱**」。監修：池田大作 / 編者：『創価学会教学要綱』刊行委員会 / 発行所：創価学会 / 発行人：原田稔）
 - ・ **2024年8月**：「『創価学会教学要綱』の考察—仏教史の視点から」発刊（以下「**考察**」。著者：須田晴夫 / ペーパーバック）
 - ・ **2024年9月**：須田氏が創価学会原田稔会長に書簡と共に上記書籍「考察」を贈呈。
 - ・ **2024年10月**：男子部教室が須田氏の「考察」に反論として、「『創価学会教学要綱』は創価ルネッサンスの集大成」と題する論考を創価新報に発表（以下「**論考**」。後に聖教新聞電子版に転載）。
 - ・ **2024年11月**：須田氏が男子部教室の「論考」に応答。
 - ・ **2025年1月**：「『創価学会教学要綱』と日蓮本仏論の考察」発刊（著者：須田晴夫 / 鳥影社）。
-

本稿 これでも「創価学会教学要綱」を信じられますか？

■池田先生監修の証拠を示せ

「要綱」には「監修 池田大作」とありますが、これまでの池田先生の御書講義や指導と随分異なっており、正直なところ信じ難いのが実情です。いつ、どのように監修されたのか、その経緯や証拠が一切示されていない点も不自然です。これは、日頭が法主相承を受けたと主張しながら証拠を示さず証明しないことと同じであり、信用できません。

■執筆者をめぐる虚偽に謝罪を

「法華経の智慧」で池田先生と鼎談（ていだん）した元副教学部長の須田晴夫氏は、「要綱」の誤りと問題点を「考察」で指摘しました。原田会長への書簡では、執筆者が創価大学名誉教授の宮田幸一氏と菅野博史氏であると述べています。これに対し、学会側（男子部教室）は「論考」で両氏の執筆を否定しました。ところが、宮田氏本人がフェイスブック上で執筆を自認していることが判明し、この否定が虚偽であったことが明らかになったのです。男子部教室はもちろんのこと、教学部、聖教新聞社、そして執行部は、この虚偽の否定について須田氏と読者に謝罪すべきではないでしょうか。

■御本尊否定の人物が執筆！？

宮田氏は、大聖人がご図顕された御本尊の讃文「有供養者福過十号」と「若悩乱者頭破七分」について、「誤りだから削除すべき」という見解を述べており、大聖人や御本尊そのものを否定する立場です。そのような人物を学会の公式教学書の執筆に関与させていることに、大きな疑問を感じざるを得ません。これは魔に食い破られているとしか思えません。

■会員に十分な説明責任を

男子部教学室は須田氏の「考察」への反論を創価新報に掲載しましたが、これは何の反論にもなっていません。「考察」が提示した疑問に答えず、悪意の悪口罵詈（あっこうばり）に終始しています。聖教新聞本紙には載せず、執筆者を明かさないのも無責任です。会員全体に共有すべき信仰の核心を、限られた範囲にしか示さないのは不誠実であり、後ろめたさの現われと言わざるを得ません。

■教義の核心を改変！

「要綱」では教義の核心を改変しています。

- ・ 一大秘法の「**本門の本尊**」を「**本門の題目**」へ改変。
- ・ 信仰者として尊崇すべき三宝のうち「**法宝**」＝「**三大秘法・南無妙法蓮華經の御本尊**」を「**南無妙法蓮華經**」に改変。「**僧宝**」＝「**日興上人**」を「**創価学会**」に改変。

■日蓮大聖人はご本仏ではない？

日蓮仏法と御本尊の相貌の根本義である人法一箇（にんぼういつか）や久遠元初自受用身如来（くおんがんじょじゅゆうしんにょらい）の記述がなく、日蓮大聖人を人本尊と認めず上行菩薩（じょうぎょうぼさつ）とし、根本仏は釈迦であるとする謗法を犯しています。教義の変更には所定の手続きが必要ですが、教義の変更ではないと強弁しているのです。このようなデタラメが通ると思っていることが信じられません。

■池田先生の指導を次々改変

池田先生の指導集や講義録が新版として続々出版されていますが、重要な指導箇所が削除・改竄（かいざん）されています。これは学会員の信仰を揺るがす重大な問題です（詳細は下記の中村誠氏、図斎修氏の文献比較を参照）。

■「要綱」は絶版に！

須田氏は自身が所属する創価学会の最高責任者である原田稔会長に対して、書簡を送り誠意をもって疑問を投げかけました。しかし、原田会長をはじめ執行部から一切の返答がありません。「一人を大事にする」学会精神に反する態度ではないでしょうか。まともに反論できないということは、誤りを認めたといえます。潔く絶版にすべきでしょう。

結びに

- ・ 戸田先生は「広宣流布の最後の敵というのは内にこそある。城者の裏切りが城を破るのだ。あの五老僧を見たまえ。五老僧は過去の話ではない」（『人間革命』第12巻319頁）と述べています。
- ・ 池田先生も「戸田先生が厳しく言われた通りである。『敵は外部にあるように見えるが、最も悪質な敵は、内部に出る』。だから毒を撒き散らす内部の敵とは戦わなければならない。放っておいたら、毒がいつしか充満し、皆の純粋な信仰が破壊されてしまうからだ。ゆえに師敵対の輩とは断固、戦い続けるしかない」（『大白蓮華』2008年5月号 56頁）と指導されています。
- ・ 日蓮大聖人は鎌倉幕府最高権力者である北条時頼に対し、正法誹謗が三災七難を引き起こし国を滅ぼすと『立正安国論』で国家諫暁（こっかかんぎょう）されました。そこには「彼の万祈を修せんよりは此の一凶を禁ぜんには」（日蓮大聖人御書全集、24頁）と、法然の選択集を破折（はしゃく）。「国土乱れん時は先ず鬼神乱る鬼神乱るが故に万民乱る」（同、31頁）

と、災難の原因を間違った思想にあると断言し、奥書に「未来亦然る可きか」（同、33頁）と記されています。現代における一凶は、『教学要綱』であると私は考えます。

戸田・池田両会長と日蓮大聖人の思いを深く考え、重く受け止めたいと強く願っています。

《参考資料》

『創価学会教学要綱と日蓮仏法の考察』（鳥影社 / 須田晴夫著）

第一部：『創価学会教学要綱』の考察—仏教史の視点から

付論① 原田会長宛書簡

付論② 男子部教学室「論考」への応答

第二部：日蓮本仏論の考察—宮田論文への疑問

中村誠『創価学会教学要綱』の意味するもの：牧口・戸田・池田三代会長の書物50冊余りとの比較検証

（Amazon / ペーパーバック）

図斉修「5・3 創価学会の日に思う『教学要綱』への疑問」

（創価自主活動支援サイト：<https://jikatsu.net/80198/>）

以上、「要綱」に関する私の見解と問題提起をまとめました。これらの疑問は単なる批判ではありません。創価学会の未来に関わる大きなテーマであり、私たち一人ひとりが真剣に向き合うべき課題です。誰かの言うことを漫然と聞くのではなく、自分の頭で考えることが求められています。それが「一人立つ」精神につながると確信しています。（文責：結城善三）